

地域と協同の

2016年8月25日発行

144号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

試練に立つ欧州連合

——危機を乗り越えていっそうの進化を——

高橋 正 先生（愛知大学名誉教授）

去る6月23日、英国国民は国民投票によって欧州連合（EU）からの離脱を決め、苦難の道を歩むことを選択した。外国企業の国外移転、海外からの投資の減少、移民労働力の減少や生産性の低下などが懸念されるし、シティの金融センターとしての競争力は弱まるであろう。

加えて、連合王国体制の維持にも力を注がねばならない。スコットランドと北アイルランドは国民投票で残留が多数を占めた。スコットランド自治政府のスタージョン首相は独立の住民投票もありうると公言し、北アイルランドでは独立とアイルランド統一の動きが強まることも予想される。

一方EU側には各加盟国の動揺を最小限にとどめ、崩壊の兆しを早急に打ち消すための有効な手当てが求められよう。

昨年6月EU首脳は声明「EMU（経済通貨同盟）の完成に向けて」を出し、2025年までに経済同盟、金融同盟、財政同盟を完成させることを公表していたが、今回の事変をうけて英国を除く27カ国首脳は、基本条約は改正せず、安全保障、テロ、移民・雇用創出など重要課題に集中的に取り組む、EUの求心力回復といっそうの進化を目指す姿勢を内外に明らかにした（6月29日）。

離脱ドミノ現象の発生を気遣う向きもある。たしかに加盟国それぞれ国内にEU懐疑派や嫌悪派がおり、英国の離脱で力を得たことであろう。ただ、直ちに同調するのではなく英国の成り行きを参考に慎重に判断するであろう。ユーロ圏の国には通貨変更という高いハードルがあり、イタリアの銀行問題やギリシャなどの財政危機は自力で解決出来ぬまま数年経ている。離脱のリスクは大きい。

日本について言えば、英国に拠点を置く企業は、大陸に新たな拠点づくりが必要になる。また英国と新たな経済関係たとえば自由貿易協定（FTA）などを結ぶことが必要になるろう。

今、私たちは難民の急増、イスラム過激派、ISの武力攻勢、さらには様々な不平等の拡大とポピュリズムの台頭など大きな課題の解決を迫られている。

私達が最も留意すべきことは、二度の世界大戦の反省に立っていくつもの共同体や連合をつくり紡ぎつつ今日のEUにまで進化してきた、この民族、国家を超えて融合を目指す人類史上初めての壮大かつ崇高な事業を発展させ平穏な世界を築くことではなかろうか。

CONTENTS

巻頭：試練に立つ欧州連合
——危機を乗り越えていっそうの進化を——
(愛知大学名誉教授・高橋正先生)

政策提言検討：7月16日(土)・公開学習会
「食と福祉と地域を支える協同組合の役割」

とうかい食農健サポートクラブ「伝統野菜学習会」報告

会員紹介：みなさん!!日本協同組合学会に入りませんか。

情報クリップ
◆刊行誌紹介
◆平成28年度 岐阜大学公開講座 地域科学部企画
◆書籍紹介「貧乏物語 現代語訳」
著者：河上肇 訳・解説：佐藤 優

研究センター 8月の活動

- | | | |
|---|----------|---------------------------|
| 1 | 8月1日(月) | 事務局会議、ものづくりの思いを語る会打ち合わせ |
| | 8月2日(火) | 研究フォーラム食と農・世話人会 |
| | 8月4日(木) | 常任理事会 8月6日(土) 政策提言チーム会合 |
| 2 | 8月8日(月) | 三重地域懇談会・世話人会「桑名訪問」 |
| | 8月9日(火) | 岐阜地域懇談会・世話人会「石徹白訪問」 |
| 3 | 8月20日(土) | 研究センター顧問懇談会 |
| 4 | 8月23日(火) | 国際協同組合デー記念行事相談会 |
| | 8月25日(木) | 三河地域懇談会・世話人会、研究センターNEWS発送 |
| 5 | 8月26日(金) | 常任理事会 8月27日(土) 政策提言チーム会合 |
| 8 | 8月29日(月) | 尾張地域懇談会・世話人会 |
| 8 | 8月30日(火) | 研究フォーラム地域福祉・世話人会 |
| | 8月31日(水) | NEWS編集委員会 |

7月16日(土)・公開学習会

「食と福祉と地域を支える協同組合の役割」

講師 向井清史先生(研究センター理事)

地域と協同の研究センターでは、TPP協定交渉や急速な少子高齢化のもと「食と農・地域福祉を含む持続可能な地域づくり」に東海の非営利・協同組合がどのように関わるか「政策提言」の検討を進めています。

7月16日(土)には政策提言の基調となる「非営利・協同組合の役割」を考える公開企画を開催しました。

向井清史先生(名古屋市立大学大学院特任教授)の講演要旨を紹介しします。(文責、向井忍)

1.主体的自由と自己責任(個人の自由と社会の責任)

○個人の自立(何かを積極的に行う責任)を求めるなら個人ができる能力を与えるセーフティネット(所得と活用する能力)と情報への十分なアクセスを保障することが社会の責任です。TPPは情報公開していないので原則違反であり、給付型奨学金がなく高等教育の基盤を空洞化した日本で自己責任というのは問題です。

2.セーフティネット空洞化への対応として個別的な自己解決の行動は閉塞的で持続不能な状態への径。

○個人的な最適化は社会的な最適化とは一致しません。環境問題、養育、介護などは社会的に解決した方がよい問題です。

3.社会的解決への可能性としてつながることで主体的自由の領域をできるだけ広げることが生協の役割。

○これは本来税金を徴収している政府の役割ですが、金融資本主義・グローバリゼーションで政府は空洞化しています。グローバリゼーションで成長の成果をトリクルダウする政策は成功していません。格差は広がるばかりです。閉塞化された部分合理性を追求する規模の経済性の限界です。

○対人サービス(介護、養育、保育)はコミュニケーションが大切であり小さなサービスで個人の使われてない能力が資源化される可能性が広がります。小さなつながりを強化することが生協の役割です。

4.セーフティネットを代替する生協のプラットフォーム機能が持つ可能性。

○くらしたすけあいの会や「子ども食堂」のように、つながりを媒介に「自由の領域」を拡張し、一人ひとりができることを大きくする。生協では物流もいかしたリアルなつながりが大切です。“利用者を囲まない経済事業(開かれたイメージの事業)”、“総合性を生かした取り組み(食と福祉の連携)”でどう多面的な資源とリンクして一人ひとりの能力を高めていけるか。南医療生協の男組のように定年退職後の男性に社会に入るノウハウを教

え地域への参加のきっかけを仕掛けることが生協のプラットフォームの意義です。

5.生協は本質的に地域事業

○有利な空間を求めて瞬時的に移動する資本は人格性を持ちませんが、生協の目的は生活文化の向上であり、利潤の最大化ではありません。個人のできる領域を拡大するには一人ひとりが見えてないといけない。本質的に地域の事業とならざるを得ません。

○コミュニティの必要条件は“他者への関心をもつ個人の集合”であること、“住み続けたいと思う帰属意識(安心が基盤)を共有した個人の集合”が十分条件です。その空間的範囲はコミュニケーションメディアの発展と物流の可能性に依存して決定されますが、多様な広がり的大小様々なアソシエーションを包摂した協同組合が想定されます。

6.協同組合が目指すべき流通のあり方。生活インフラであることを自覚した事業

○他者への関心を内在させた商品流通であり、消費者は生産者への関心を持ち、情報の公開性、環境への影響などに配慮した消費や生産が大切です。協同組合は利益の分配を制約していますが、組合員はそのマイナスをプラスと考えているから加入しています。その共通の認識がないといけない。コミュニケーションにより“合意へと向かう”。相手の方が正しいかもしれないという感覚を常に意識化していることが大切です。

「小さなつながり」で一人一人ができることをふやしていくのは自治体が最初にやるべきですが、人的資本や能力からも次にあるのは生協です。その意識で事業展開する必要があります。協同組合は他者への関心を持った所有です。どういう事業をやるか多数決では限界があるという自覚で、参加の場に臨めない周りの人への関心を持つことを大切にしながら、地域の場で一人ひとりできることを少しでも増やしていくことが、政策提言のテーマの根底にある考え方ではないでしょうか。

とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告 「伝統野菜をつくってみよう！」

文責：大島三津夫

とうかい食農健サポートクラブが企画する「伝統野菜」シリーズ第二弾学習会「伝統野菜をつくってみよう！」を7月2日(土)、43名の参加で開催しました。講師はあいちの在来種保存会代表世話人・シニア野菜ソムリエの高木幹夫さんと大府市共和町で農業を営んでいる山口茂樹さんです。お話の一部をご紹介します。

◆ 「カリモリ」の圃場見学 ◆

堀川敬生さんから6月28日に「カリモリ」圃場の見学報告がありました。

堀川敬生さん：「カリモリ」の圃場見学に行ったのは、つくっている方が今年は4軒に減ったと聞き、少ない人数のため実情をお聞きしたいということからでした。栽培されているのは「早生カリモリ」です。円筒形で、緑色の堅い漬け物用の瓜です。圃場は、碧南火力発電所が見える前浜という地域にあり、ビニールハウスが3棟、およそ1反くらいの栽培面積で、藁を敷いてカリモリが植えてあります。地面にそって茎が伸び、這って作業をしています。週2～3回出荷し、朝5時半くらいから収穫し午後に出荷します。4月後半から2ヶ月くらい収穫が続きます。カリモリは昭和40年ごろから碧南でつくられるようになり、当初は30名生産者がみえましたが、今は4名で生産量も10分の1ということです。カリモリは自動化ができない野菜で、手で蒔いて、手で収穫しなければならず、作業がたいへんで「玉ねぎ」とか「人参」という機械化できる作物をつくるようになり、後継者が育っていないということです。

◆ 伝統野菜をつくってみよう！ ◆



山口茂樹さん：たまたまつくっていた知多3号玉ねぎ、木之山五寸人参が注目を浴び、他の伝統野菜もつくってみようという取り組みが始まりました。つくってみたのは、知

多3号玉ねぎ、養父早生玉ねぎ、木之山五寸人参、天狗なす、大高菜等です。伝統野菜は地域に合う、合わないがあり、ちゃんとつくろうと思うと、地名のついた地域でつくられた方がよりよいものができると思います。八事五寸人参が木之山五寸人参のルーツですが、木之山で作り始めて年数が経ちました。毎年、種を選びます。収穫終盤の人参で、よりよいものを選びます。よりよいというのは、色よく、形よく、味よくということですが、形のよいものを選びます。なるべくふわっと長く、根まで揃っているもの、芯まで赤くて、煮たら柔らかく、太陽に透かして根っこまで赤いものを選びます。過去には、

生産者が30名近くいて、収穫時には、毎日千箱は出るような地域でしたが、今は8人くらいです。伝統野菜は、病気に弱く、シミ腐病が蔓延したことがあり、途中途切れしました。知多3号玉ねぎの特徴は、四角になったようなところですが、この玉ねぎも一旦途切れしました。10年前に最終の知多3号玉ねぎの種があるということで、混ざった種をいただきました。毎年種をとり、やっと本来の形になってきました。伝統野菜がなぜつくられなくなったかというのは、高齢化とか、後継者不足ということもあると思いますが、知っている方が少なく、伝統野菜には、いろんな特徴ある中で、例えば、方領ダイコンは形的にこんなに曲がっていて、また、葉っぱが垂れ下がって、収穫に難があります。今日は方領だいこんと八事五寸人参の種をお配りしていますが、芽が出てきたら、まずは抜き菜で食べてください。葉っぱまで食べられるおいしいダイコンです。

高木幹夫さん：国産野菜も、種は外国からということです。種屋さんも発表していますが、90%以上は外国産です。その一つの理由は、交配しないと種にはなりません。他の花粉が届かないように、ミツバチが飛ばない4キロ～8キロ以上離さないといけません。そのためには広い大地が必要で、だから外国でつくろうというのが一つの考え方です。もう一つは人件費です。手間をかけなければ種がとれないため、人件費の安い外国でつくろうということです。日本の種屋さんが外国に出てやってもらっています。これは日本の農業を守るための一つの方法かもしれません。種がなくなれば日本農業はだめになります。私は一握りでいいから、種から国産をと目標をもって残したいと思います。



伝統野菜は種をとるのに苦労します。知多3号玉ねぎでは6月に「玉ねぎ」をとり、ぶら下げます。それを、10月に植え、翌年花が咲いて種がとれます。1年以上かかり、一回失敗すると、来年どうするかとなりますので、その際の種も確保します。

みなさん!! 日本協同組合学会に入りませんか。

日本協同組合学会は1981年4月に設立され、日本学術会議第3部に登録されています。学会の目的は、研究者と実践家の協力によって協同組合運動のあり方について学際的に研究することです。

わが国の協同組合運動は今日大きな変化に直面しています。農協のほか生協、漁協、森林組合、信金、信組、労金、労災、中小企業等協同組合、労働者協同組合など各種の協同組合がその組織面、事業面で変化を迫られています。活動分野も伝統的な金融、購買以外に共済、住宅、医療、地域活動など構成員の全生活領域に及ぼうとしています。こうした協同組合運動の量的・質的変化に応じて、協同の規模の問題、組織と事業のバランスの問題、協同組合間提携の問題、地域社会の活性化の問題、政策への対応の問題など、さまざまな新しい問題が生じています。これらはきわめて実践的問題であると同時に、優れて理論的問題でもあります。そのため、問題解明のためには実践家と研究者との協力態勢が必要であります。日本協同組合学会には研究者だけでなく、各種協同組合の第一線で活動中の実践家が多数参加しています。

本学会の現在の会員数は約700名、賛助会員46団体であり、その活動としては年1回の大会、年4回の学会機関誌「協同組合研究」刊行のほか、春季研究大会、地方支部研



究会の開催、書籍の刊行、海外協同組合研究機関との研究交流などを行っています。

国際的な研究活動も活発になされています。1992年10月にはアジアで初めて国際協同組合同盟(ICA)大会が「協同組合の基本的価値」をメインテーマとして東京で開催されました。世界各国から多数の協同組合人が集まり協同組合運動の基本的問題について検討するこの好機をとらえて、本学会もこの大会に研究面で貢献すべく取り組みを強化しました。本学会は春季研究集会と大会においてこれまで4回にわたり、わが国の協同組合運動の現状をふまえて「協同組合の基本的価値」の問題をめぐる独自の研究課題を設定し、研究を深めてきました。

協同組合運動を活発化させるという実践的課題をもつ本学会の研究水準を高めるためには、協同組合運動の各領域で活動している実践家、研究者を多数会員に迎えることが必要であります。また、協同組合運動の一つの領域で活動している人にとっても、広い視野から当該領域を研究することは意義あることでしょう。-入会案内より抜粋-

10月7日(金)～9日(日)には、日本協同組合学会第36回大会が 北海道大学農学部で開催されます。

10月7日(金)地域シンポジウムは、「北海道農業と農協の役割 ～JA改革の実践にむけて～」です。協同組合としての特質である「人的結合組織」「地域への貢献」という視点に特に注目をしながら、北海道の最新の動きについて現場から報告を踏まえて、北海道の農業・農村のこれからの形と、そこでの農協の役割について考えてみます。

10月8日(土)午前 個別論題報告・テーマセッションは、6会場で26の報告が用意されています。多岐にわたるテーマでの報告です。

10月8日(土)午後 大会シンポジウムは、「これでいいのか協同組合 ～その主体性を問う～」です。政府主導による今般の制度改正の要求は、直接的には、農業協同組合に向けられたものですが、その根底に流れている大企業優先の経済思想から考えれば、決して農業協同組合に留まるものではありません。協同組合一般に対する攻撃ないし挑戦と受け止めなければならぬでしょう。こうした事態に対処して、協同組合セクターに課された今日的課題とは何かを論議します。

10月8日(土)午後 会員総会

10月8日(土)夕方 交流会

10月9日(日)エクスカージョン 北海道を代表する農業地帯であり、農協合併とは異なる「ネットワーク十勝」という連携の中で各地域が独自の農業振興を行っている十勝を舞台に、農業・農村振興における農協の役割について視察します。

関心のある方の学会参加を求めます。

入会手続きは申込書に所定事項をご記入のうえお申し込みください。会費は年6,000円(但し、学生会員は3,000円)です。なお、本学会の年度は毎年9月1日より翌年8月31日までを1期としております。

詳細はホームページをご覧ください

<http://www.coopstudies.com/入会案内/>

大学生協東京事業連合
岡本 一郎様より

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(頒価)
<p>▶生協と福祉・介護の取り組み</p> <hr/> <p>NAVI 2016.8 773</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 生協の福祉・介護の取り組み 超高齢・人口減少社会の中で <つながろうCO・OPアクション情報> 生協くまもと ほか <コープのある風景> いわて生協 <こんにちは！生協女子ですっ！> コープぎふ 河隅里紗さん <元気な店舗の取り組みを学ぶ> みやぎ生協 榴岡店 <宅配・現場レポート> 生協共立社 <生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OP チルドおさかなソーセージ <想いをかたちにコープ商品> CO・OP セフターENERGY 強力洗浄 <エッセイ> 東京⇄パース 小島慶子の8,000キロ通信 空からひとりごと <日本全国ふだんのくらしを支えたい> おおさかバルコープ <この人に聴きたい> 能楽師 安田 登さん <ほっとNAVI> みやぎ生協 コープおきなわ</p>	<p>2016年 8月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶購買事業を支える 物流・配達 その価値 と品質を高める</p> <hr/> <p>生協運営資料 2016.7 290</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 店舗と班配を中心に成長した半世紀。 「私の生協」と思っていただけよう組合員と向き合う コープかがわ●理事長 木村誠氏</p> <p>特集 購買事業を支える物流・配達 その価値と品質を高める</p> <ol style="list-style-type: none"> 効率的な投資と既存の体制で、 配送日時を指定できる新サービス「指定便」を実現 パルシステム東京 ●執行役員 パルシステム事業活動本部 本部長・杉村剛是氏 農産宅配の成功の鍵は、物流施設の管理・運営によって生まれる「信頼」 コープ九州事業連合●事業統括本部 商品本部 農産商品部部長 兼務 品質保証推進担当 井ノ上誠氏 「物流」「商流」「情報流」を統合し商品事業・会員事業への貢献を目指す 日本生協連●ロジスティクス本部 本部長 佐藤豊 <p>連載</p> <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第2回 SM企業のトレンドを学ぶ 首都圏クリニック視察報告 日本生協連●事業支援本部 事業支援部 店舗事業支援グループ 中谷誠一</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第14回「第1回全国生協営業コンテスト」 開催地生協・コープあいちの振り返り コープあいち●事業推進本部 仲間づくり推進部 執行役員 須々木 啓氏 仲間づくり推進部 仲間づくり推進課 課長 加藤靖裕氏 名東センター仲間づくりスタッフ 篠田初美氏</p> <p>特別企画 受け継がれる加賀屋流の接遇に学ぶ 和倉温泉 加賀屋 ●ほっと石川観光マイスター おもてなしマイスター長子氏 客室部 シニアマネージャー 楠峰子氏</p>	<p>2016年 7月 B5版 67頁 定価850円</p>

<p>▶新規就農支援に向けた JA の取り組み</p> <p>~~~~~</p> <p>月刊 J A</p> <p>2016. 8 738</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 新規就農支援に向けた JA の取り組み JA グループが進める新規就農者対策について JA 全中営農・経営戦略支援部 地域と共に農業を守る — JA の取り組みから ① (有) 信州うえだファーム ② JAふくおか八女</p> <p>JA による新規就農支援のポイント 和泉真理 (〈一社〉 JC 総研客員研究員)</p> <p>オピニオンリーダーに聞く きずな春秋 —協同のこころ— スタートは小藩の農業改革 あさのあつこ 童門冬二</p> <p>JA トップインタビュー キャベツを“核”に地域を守る 松本義正 (群馬県 JA 嬭恋村 代表理事組合長)</p> <p>展望 JA の進むべき道 さらなる創造的自己改革と真の骨太の農業政策 大西茂志 (JA 全中常務理事)</p> <p>海外だより [D.C 通信]連載 63 「食と農を語る夕べ」 ～日本食・国産農畜産物の発信 中村岳志</p> <p>JA 全中 Monthly Report 7月 協同組合の広場 日本生協連、JF 全漁連、全森連、全国大学生協連 ミノーレからこんにちは。</p>	<p>2016年 8月 A4版 50頁 年間購読料 5,109円 (送料・消費税込み)</p>
<p>▶海外の生協 2016 世界的な環境変化のなかでの歩み</p> <p>~~~~~</p> <p>生活協同組合研究</p> <p>2016. 8 487</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 ブループリントは何のために提案されたのか 中川雄一郎</p> <p>▶特集 海外の生協 2016 — 世界的な環境変化のなかでの歩み 欧州6カ国生協の経営概況 —イギリス、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、スイス、 スペインの生協の2015年度決算状況から— 佐藤孝一</p> <p>ユニークな経営で成功を収めるイギリスの労働者協同組合 天野晴元</p> <p>イタリアで設立がすすむコミュニティコープ訪問報告 宮沢佳奈子</p> <p>韓国生協の現状と課題 李香淑</p> <p>シンガポールとともに歩む NTUC フェアプライス生協 西本有希</p> <p>コラム1 台湾の生協 —台湾主婦聯盟生活消費合作社— 林暉樺 (翻訳：齊藤真吾)</p> <p>コラム2 ドバイ・エミレーツ生協の一齣 鈴木岳</p> <p>■研究と調査 保険・共済の歴史展開と共済制度の今日的意義 今尾和實</p> <p>■時々再録 日本記者クラブ 森重昭会見「原爆で犠牲となった米兵捕虜」 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2016・6) 菅野幹雄</p> <p>■新刊紹介 広岡裕児著 『EU 騒乱 テロと右傾化の次に来るもの』 松田千恵</p>	<p>2016年 8月 80頁 B5版</p>

<p>▶平和の尊さと憲法九条</p>	<p>農協組合長インタビュー（30） 准組合員問題には攻めの姿勢で 神永信男 2016年度診療報酬・薬価改定にみる厚生連の状況と本会の対応 佐治実</p> <p>院長リレーインタビュー（291）気楽に来院できる病院にしたい 清水純一</p>	<p>2016年 8月 B5版 88頁</p>
<p>文化連情報 2016. 8 461 日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>二木学長の医療時評（140） 國頭医師のオブジーボ亡国論を複眼的に評価する ー技術進歩と国民皆保険制度は両立可能 二木立</p> <p>「山上の光賞」を受賞して 地域へ足を運ぶことの意義 松島松翠</p> <p>慢性腎臓病（CKD）の患者さんへ救いの手を 椎貝達夫</p>	<p>文化連情報 編集部 03-3370- 2529 ＊注</p>
<p>平和の尊さと憲法九条</p>	<p>レシャード・カレット</p> <p>農村医学は世直し運動！ 私の歩んできた道（17） 「健康から医学」本丸ようやく築城 小山和作</p> <p>臨床倫理メディエーション（4） 倫理の歴史 ー生命倫理の誕生ー 中西淑美</p> <p>第19回厚生連医療経営を考える研究会報告 西出健史</p>	
<p>岡田玲一郎の間歇言</p>	<p>平凡なことですが 地域の機能別連携は望ましい構築が必要だ 岡田玲一郎</p>	
<p>デンマーク&世界の地域居住（87）</p>	<p>オランダの革新⑧介護士から見た在宅ケアの革新 松岡洋子</p>	
<p>熱帯の自然誌（5）気候</p>	<p>安間繁樹</p>	
<p>戸山ハイツ 『未来の物語』を語ろう！ シンポジウム&ワークショップ</p>	<p>熊谷麻紀</p>	
<p>コペンハーゲン・アマー地域の認知症の在宅ケア（4） 認知症ケアの実践</p>	<p>小磯明</p>	
<p>●野の風● 両手いっぱい旬野菜で心も体も環境も健やかに！</p>	<p>小池澄子</p>	
<p>◆第7回厚生連DPC/PDPS 対策研究会開催のお知らせ ◆第7回厚生連メディエーター養成研修会・ 第4回厚生連医療メディエーター実践者スキルアップ研修会開催のお知らせ ◆第20回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会開催のお知らせ ◆平成28年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ</p>		
<p>◇各地のニュース □書籍紹介</p>	<p>『政府はどこまで医療に介入すべきか』 『政府は必ず嘘をつく 増補版』 『TPPと農林業・国民生活』</p>	
<p>▶線路は続く（101） 四万十川を満喫 予土線</p>	<p>西出健史</p>	
<p>▶最近見た映画 カンパイ！ 世界が恋する日本酒</p>	<p>菅原育子</p>	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

平成28年度 岐阜大学公開講座 地域科学部企画

岐阜の魅力から「地域再生」を考える

[会場] 岐阜大学地域科学部101講義室

第1日目 9月24日(土) 13:00~17:00

- 1.黒田 隆志 氏(前岐阜市歴史博物館長)
社会科教育を中心とする学校教育と歴史博物館との連携がまちおこしに貢献
- 2.林 正子 教授(日本近代文学)
清流長良川の文学の魅力—舟橋聖一『白い魔魚』を読む
- 3.近藤 真 教授(憲法学) 憲法から見た岐阜の宝

岐阜大学地域科学部はglocalな文理融合の新説学部ですが、20年間で卒業生の3割を県や地方行政におくりだしました。彼らが現実と大学を結べば、地域問題解決の法政策的立案が可能になり、地域近代化の未来が切り開かれるでしょう。(近藤真教授・憲法学)

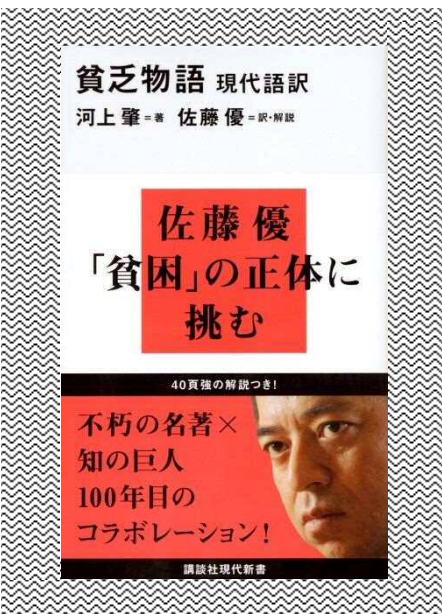
第2日目 9月25日(日) 13:00~17:00

- 1.蒲 勇介 氏(NPO法人ORGAN理事長、長良おんぱくプロデューサー) 長良おんぱく
- 2.稲生 勝 教授(科学哲学) 岐阜県の産業遺産
- 3.富樫 幸一 教授(経済地理学) 長良川流域から伊勢湾までの循環型地域をめざして

※受講希望の方は「住所、氏名、年齢、電話番号」を明記のうえ、郵送・持参・FAX・E-mailのいずれかの方法でお申し込みください

申込期限 9月9日(金) 申込先 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部総務係
TEL058-293-3003 FAX058-293-3008 E-mail: chiiki@gifu-u.ac.jp

書籍案内



貧乏物語 現代語訳

著者：河上肇 訳・解説：佐藤 優 発売日：2016年06月14日
定価：800円(税別) 出版：講談社 判型/頁数：新書 264p

不朽の名著×現代の「知の巨人」による100年目のコラボレーション！佐藤優が「貧困」の正体に挑む！1916年の発表から1世紀——。日本の志ある若者たちが夢中になって読み耽った古典がわかりやすい、読みやすい現代語訳でよみがえる。現代の若者にこそ読ませたい一冊！
「世間にはいまだに一種の誤解があって、『働かないと貧乏するぞという制度にしておかないと、人間はとにかく怠けてしかたがない。だから、貧乏は人間を働かせるために必要なものだ』というような議論があります。しかし、少なくとも今日の西洋における貧乏は、決してそういう性質のものではありません。いくら働いても貧乏から逃れることができない、『絶望的な貧乏』なのです——本文より なぜ豊かな国に多数の「貧乏人」がいるのか？なぜ働いても貧乏から脱出できないのか？トランプ、サンダース旋風の正体は？パナマ文書が語る資本主義の現実とは？人間関係の商品化とは？資本主義の矛盾を解決するための処方箋とは？
講談社BOOK倶楽部(ホームページ)より

2016年8月25日発行(毎月25日発行)
定価200円
(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事 西川 幸城
〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail AEL03416@nifty.com
HP http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター 9月の活動予定

- 9月1日(木) 組合員理事ゼミナール世話人会
- 9月3日(土) 共同購入マイスターコース③
- 9月6日(火) 事務局会議, 三重地域懇談会・世話人会
- 9月12日(月) 岐阜地域懇談会・世話人会
- 9月15日(木) 協同の未来塾⑨
- 9月16日(金) 暮らしを語り合う会
- 9月17日(土) 第13回東海交流フォーラム実行委員会, 政策提言「公開学習会」
- 9月22日(木) 常任理事会
- 9月23日(金) 研究フォーラム環境・世話人会
- 9月30日(金) 組合員理事ゼミナール①